

スクリプト概要

本アプリケーションは複数のスクリプトを使用し、処理を行っております。

スクリプト名	種類	説明
XML_To_QA_Claude_convert	メイン	LLM（Claude）を用いて、指定したXMLファイルをQA形式のCSVファイルに変換
XML_To_QA_Claude_validate_limits	サブ	XMLファイル変換の所要トークン数の制限値チェック
XML_To_QA_Claude_convert_to_csv	サブ	XMLファイルのQA変換結果をCSVファイルに出力

コネクション設定

コネクタータイプ	REST接続
URL設定	https://api.anthropic.com

可変長読み取り設定

指定したファイルをClaudeにアップロードするために、「可変長読み取りフォーマット定義」を利用して、ファイルを読み取ります。
後述の設定手順にて「可変長読み取りフォーマット定義」を作成のうえ、可変長読み取り処理コンポーネントのプロパティ設定ダイアログにて、フォーマットの設定を行ってください。

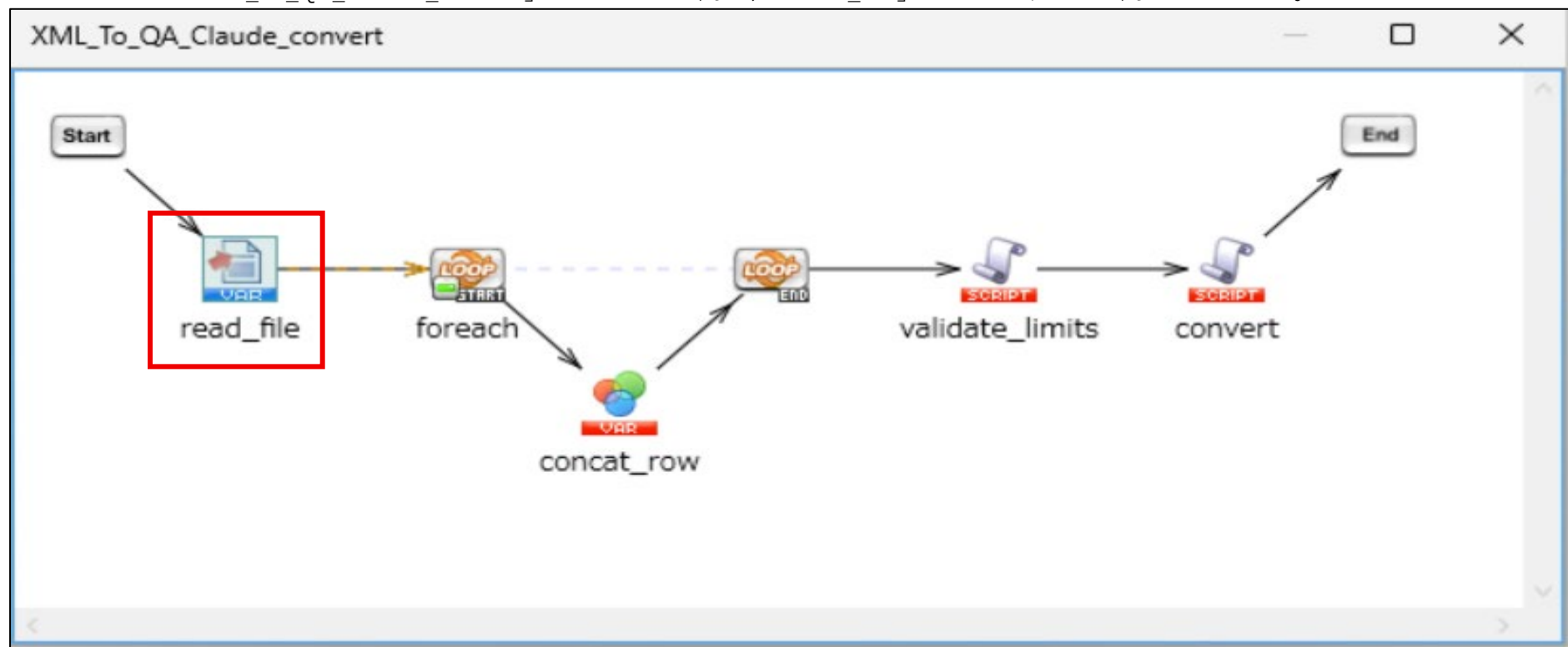
<可変長読み取り 設定手順>

1. HULFT Squareサイト > データ形式 から「新規追加」を選択し、「可変長読み取りフォーマット定義」を作成してください。

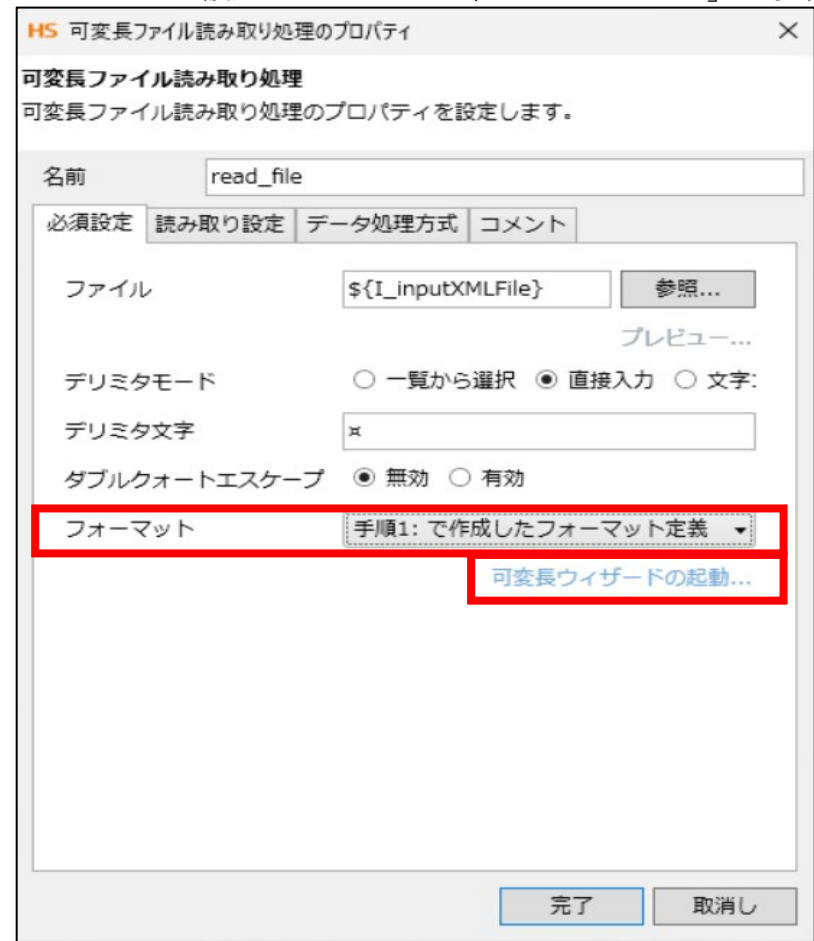
※「名前」「ワークスペース」には任意の値を設定してください



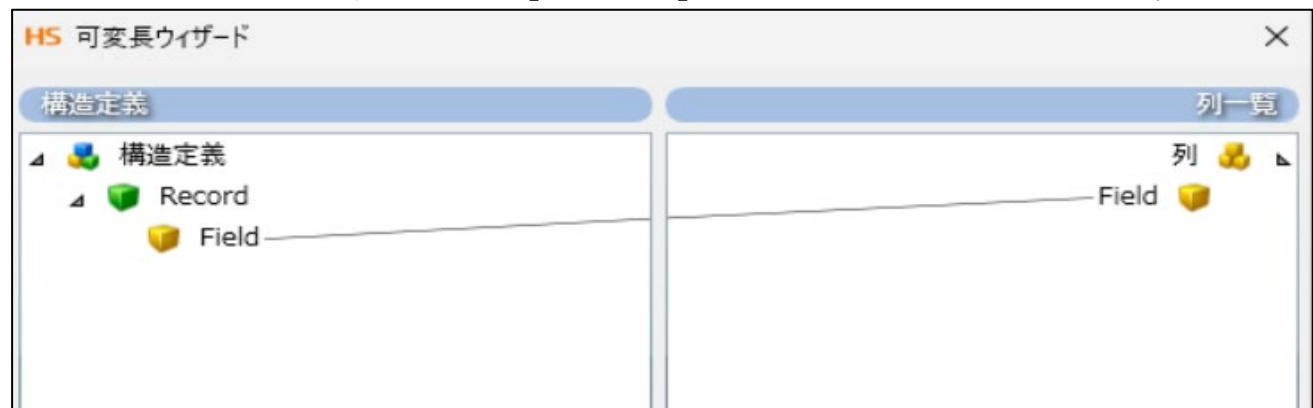
2. デザインで「XML_To_QA_Claude_convert」スクリプトを開き、「read_file」コンポーネントを開いてください。



3. プロパティ設定ダイアログにて、「フォーマット」に手順1で作成した可変長読み取りフォーマット定義を選択し、「可変長ウィザードの起動...」を押してください。



4. 可変長ウィザードにて、「構造定義」「列一覧」を以下の通りに設定してください。



可変長読み取り設定は以上です。

可変長書き込み設定

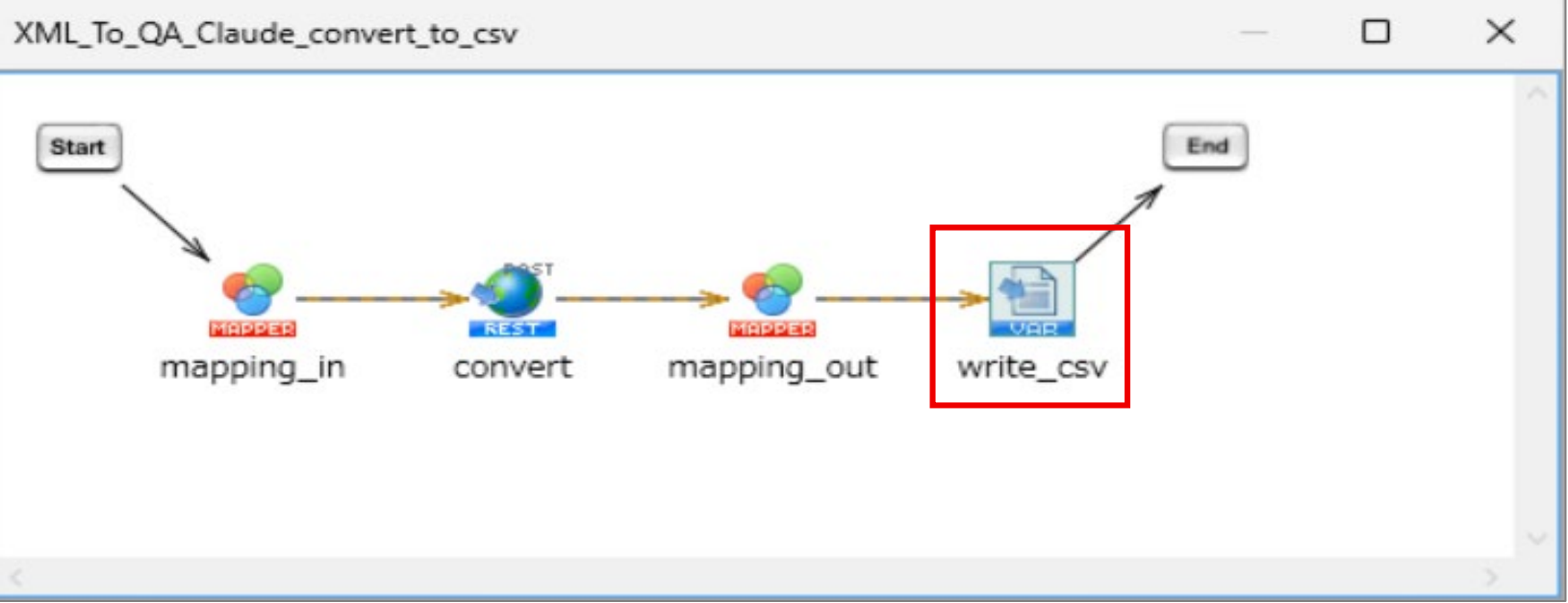
Claudeのレスポンスをファイルに書き出す際に、「可変長書き込みフォーマット定義」を利用します。
後述の設定手順にて「可変長書き込みフォーマット定義」を作成のうえ、可変長書き込み処理コンポーネントのプロパティ設定ダイアログにて、フォーマットの設定を行ってください。

<可変長書き込み 設定手順>

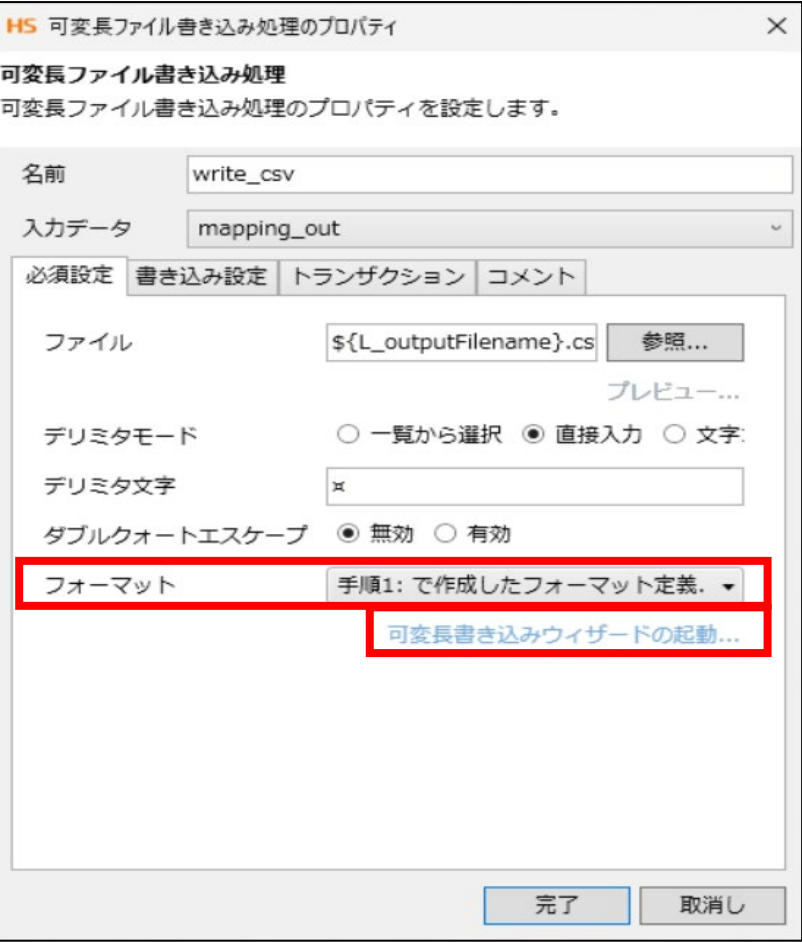
1. HULFT Squareサイト > データ形式 から「新規追加」を選択し、「可変長書き込みフォーマット定義」を作成してください。
※ 「名前」「ワークスペース」には任意の値を設定してください



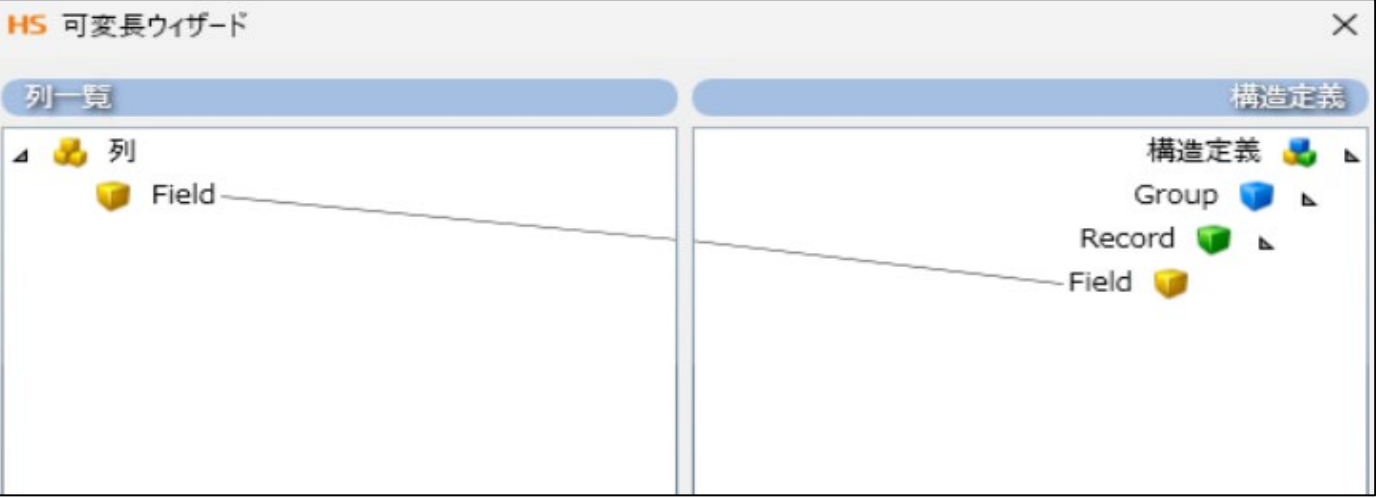
2. デザインで「XML_To_QA_Claude_convert_to_csv」スクリプトを開き、「write_csv」コンポーネントを開いてください。



3. プロパティ設定ダイアログにて、「フォーマット」に手順1.で作成した可変長書き込みフォーマット定義を選択し、「可変長書き込みウィザードの起動...」を押してください。



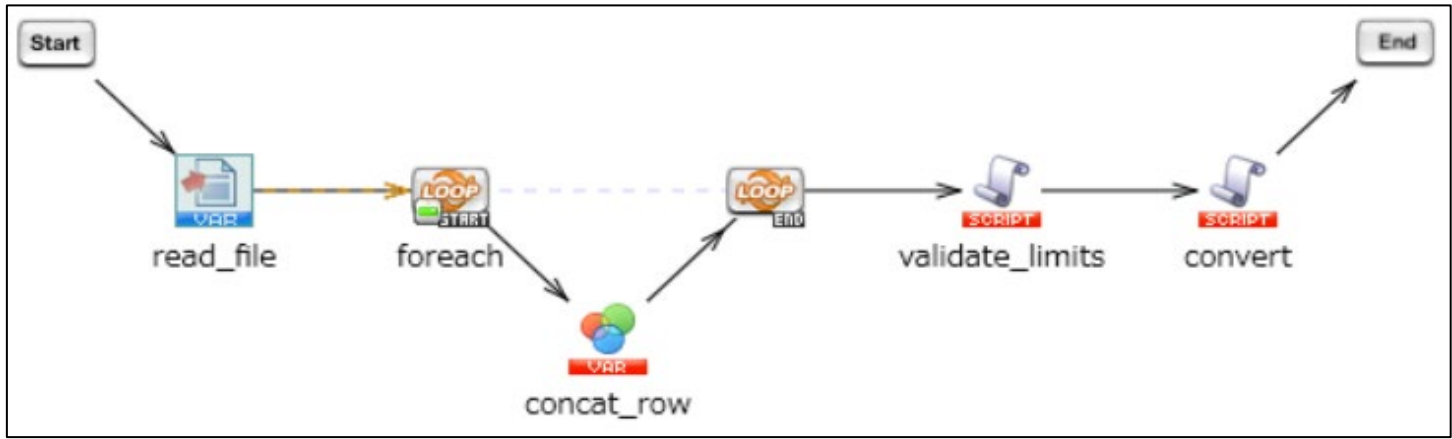
4. 可変長ウィザードにて、「列一覧」「構造定義」を以下の通りに設定してください。



可変長書き込み設定は以上です。

スクリプト名
XML_To_QA_Claude_convert

LLM（Claude）を用いて、指定したXMLファイルをQA形式のCSVファイルに変換します。

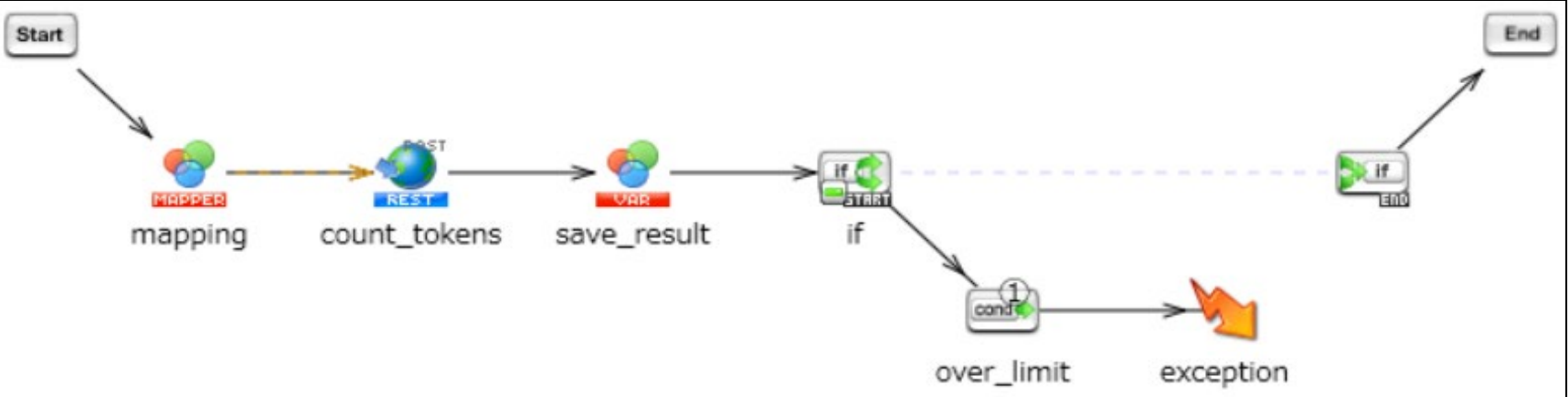


初期設定項目(スクリプト変数)		
項目名	必須/省略可	説明
l_anthropicAPIKey	必須	事前 to 取得したAPIキー
l_modelName	必須	利用するAIモデル名
l_inputTokensLimitation	省略可	インプットトークン数の制限値 (初期値：6200)
l_inputXMLFile	必須	XMLファイルのフルパス

備考
スクリプトコピー後、実行前にスクリプト呼び出しコンポーネントを開き[完了]ボタンを押下

スクリプト名
XML_To_QA_Claude_validate_limits

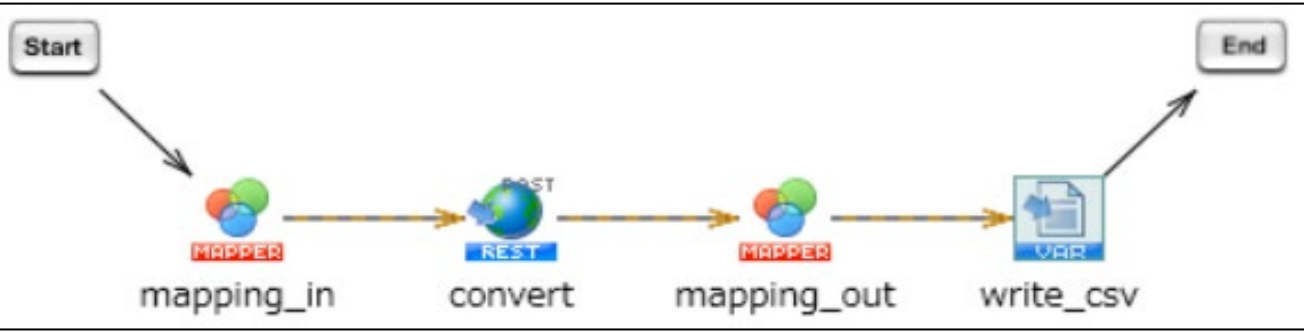
XMLファイル変換の所要トークン数の制限値をチェックします。



初期設定項目(スクリプト変数)		
項目名	必須/省略可	説明
なし	-	-

スクリプト名
XML_To_QA_Claude_convert_to_csv

ClaudeにリクエストしたQA分割結果を可変長ファイルとして出力し、CSVファイルに変換します。



初期設定項目(スクリプト変数)		
項目名	必須/省略可	説明
なし	-	-